

「熊のしっぽ」

(フィンランドの昔話)

むかしむかし、あるところに一匹の狐がいました。狐はたくさんの魚を持っていて、おいしそうに魚を食べています。そこに、熊がやって来ました。

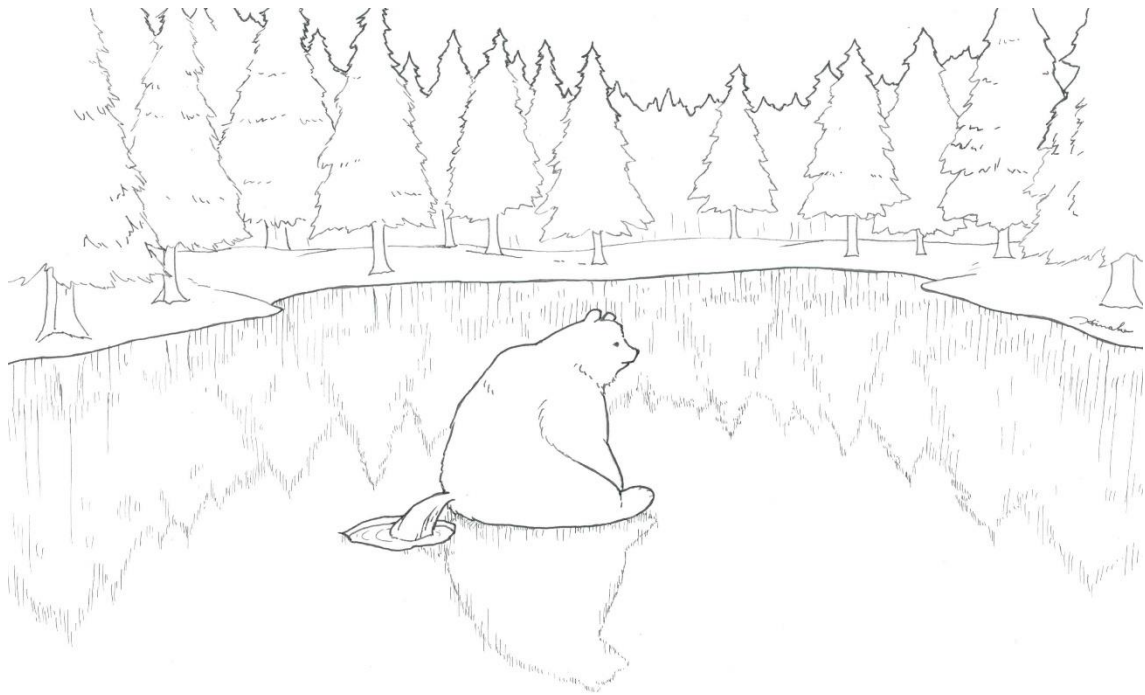


「そんなにたくさんの魚をどこでとったの？」と、熊が言いました。

「湖で釣ったんだよ」と、狐が答えました。

「どうやって釣ったんだい？」と、また、熊が聞きました。

「冬の夜に凍った湖に行くのさ。そして、しっぽを凍った湖の中に入れて、一晩待ってごらん。そうすると、たくさん魚が釣れるよ。ぜひ、やってみて」と、狐は熊に教えてあげました。



夜になりました。とても寒い夜です。

熊は湖に行きました。湖は凍っています。熊は、凍った湖に小さく穴を開けて、しっぽを水の中に入れました。水がとても冷たいので、しっぽがチクチクします。でも、熊は、魚がしっぽをつついているのでチクチクするのだと、思いました。

「たくさん魚が釣れるぞ」と、熊はうれしくなりました。

時間が経つと、だんだん湖の水が凍り始めました。そして、夜の間熊のしっぽは、湖の中で凍ってしまいました。

朝になりました。

「もういいだろう」と、熊は言いました。そして、水の中からしっぽを引き抜こうとしました。でも、しっぽが動きません。

「やれやれ、しっぽが重すぎるぞ。本当にたくさんの魚がしっぽに付いているんだな」と、熊は思いました。

熊は、もう一度しっぽを引き抜こうとしました。それでも、しっぽは動きません。その時、熊は分かりました。しっぽが湖の中で凍ってしまったのだと。

「狐のやつ、俺をだましたな！」と、熊は怒鳴りました。そして、しっぽを強く引きました。すると・・・「ブチッ」。



なんと、熊のしっぽが切れてしまいました。

それから、熊はしっぽが短くなったということです。

(710 字)

(Written by VILJANEN TOMI PETTERI, VESAKOIVU JANI OSKARI)

(Edited by Toru YOSHIKAWA)

(All pictures are drawn by Hinako FUJIMURA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.